

フリーバーン方式酪農での黄色ブドウ球菌による乳房炎清浄化の取り組み（第2報）

京都府山城家畜保健衛生所

○一星 暁美 山内 昭 中西 剛

【はじめに】フリーバーン方式における酪農では、感染症防除は困難な場合が多い。当所では平成18年からフリーバーン方式の牛舎における黄色ブドウ球菌（以下 SA）による乳房炎の清浄化に取り組んでいるので、その概要を紹介。【これまでの取り組みと成果】平成18年度には、① SA 保菌牛の把握と群分け、② SA 陽性牛の淘汰又は盲乳の指導、③ 搾乳手技の指導により SA 陽性頭数は20頭から15頭に減少。【今回の取り組み】19年度は① 共済と連携し搾乳立会による搾乳指導、② 乾乳期治療をした牛の細菌検査、③ SA 陰性牛群の陰性確認（モニタリング）の実施（6月及び12月）。

【結果】① 搾乳手技の改善、② 分娩後3回検査で SA が分離されなければ陰転と判定。10頭治療し8頭が陰転（残り2頭のうち1頭廃用、1頭 SA 分離）。③ 6月には21頭79分房検査し、3頭4分房から SA 分離。乾乳治療開始後の12月には36頭137分房を検査し SA 分離なし。【まとめ】以上の取組により、当該農場における SA 陽性頭数は10頭と前年度よりさらに減少。19年11月における体細胞数は、SA 陰性群 414.1（ $\times 10^3/ml$ 、以下同じ）、陰転群 246.6、陽性群 934.2 となり、陰性群及び陰転群が低い傾向。フリーバーン方式においても、農家の積極的な取組及び関係機関の連携により SA 乳房炎の清浄化の可能性を示唆。